

妊婦さんへの情報提供（中東呼吸器症候群（MERS(マーズ)）に関する件）

2015 年 6 月 10 日

公益社団法人日本産婦人科医会

会長 木下 勝之

担当常務理事 平原 史樹

中東呼吸器症候群（MERS(マーズ)）は MERS コロナウイルスによる感染症で中東を中心に流行しており、2015 年 6 月現在、韓国で院内感染を中心として患者数が増加しているという情報が入っています。なお、本邦では輸入感染症として警戒の態勢が取られております。

現在 MERS による妊娠への影響は明らかではありませんが、流産、死産をきたす可能性があることが示唆されており報告例もあります（J Infect Dis. 2014;209:1870-2）。妊娠中の方にはこの感染症により流産の可能性があることを認識し、感染地域への渡航はできるだけ控え、また流行地から帰国し発症の可能性のある人との接触等、2 次感染の恐れのある方には留意されることをおすすめします。

感染はインフルエンザと同様な飛沫感染・接触感染が主体ですので、インフルエンザでの飛沫感染・接触感染などを予防する方策と同様な注意（手指消毒、咳、発熱などの症状がある場合は接触を最小限にする、咳エチケット（[1]マスクをする、[2]咳・くしゃみの際はティッシュペーパーなどで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむける、[3]使用したティッシュペーパーはごみ箱に捨て、手を洗うなど）が必要とされています。

詳しくは

厚生労働省HP・中東呼吸器症候群（MERS）について

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/mers.html>

国立感染研究所HP・中東呼吸器症候群（MERS）に関する項目

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/alphabet/mers/2186-idsc/2686-mers.html>

をご参照ください。